

## 造血細胞移植センター紹介

### 患者さんもチーム医療の一員である理想の移植医療をするために

造血細胞移植センター センター長 谷本一史

造血細胞移植センターでは自己及び同種の造血幹細胞移植を行っています。造血幹細胞移植は難治性の造血器悪性腫瘍や遺伝疾患などに対する有用な治療であり、近年は移植治療の患者数・適応疾患とも増加傾向にあります。自己以外の同種移植に関しては、血縁者間をはじめ、骨髄バンクからの非血縁者間移植と臍帯血バンクからの臍帯血移植も行います。当科は造血細胞移植学会の非血縁者間造血細胞移植認定診療科の認定と、日本骨髄バンクの骨髄採取施設にも認定されています。また2020年4月に無菌室が2床から6床に増え、無菌室のスペースが広がりました。それに合わせて移植数も増やせるよう、移植に必要な環境の拡充も行っています。

また多方面の大学・病院との協力で、造血器腫瘍における遺伝子検査が早期に行えるようになり、移植治療の適応について、より細かく検討することが可能となりました。更に半合致移植など新しい移植法が開発される中、私たちは多岐にわたる移植をスムーズに導入し、患者さんも含めたチーム医療を充実すべく日々診療を行っています。



#### PROFILE

たにもとかずし◎1999年愛媛大学医学部卒業後、当院や愛媛県立中央病院にて勤務。2009年の愛媛大学大学院修了後、アメリカ合衆国国立衛生研究所にて客員研究員となる。2013年に当院血液・免疫・感染症内科学講座助教となり、2018年8月より現職。